

アカゲラ通信



旭山で短期間／ときどき見られる野鳥：秋から冬鳥編

旭山で短期間に見られる野鳥、今回は秋から冬編です。写真はすべて旭山で撮影されたものです。これらの野鳥には①②③3つのタイプがあります。

なお、「夏鳥編」は2025年7月号をご参照ください。

①道内の山地や草原で繁殖し秋に南に渡る前に寄る「夏鳥」

- ・ルリビタキ（右写真①）：10月以降見られますが春よりは少ないです。
- ・ノビタキ：今秋も9月から10月に何度か観察情報がありました。
- ・ビンズイ（右写真②）：9～10月に何度か見られます。
- ・サメビタキ：ほぼ毎秋エゾビタキと同じ頃に数日間見られます。
- ・カヤクグリ：春秋ともに観察情報は少ないです。
- ・ベニマシコ：10月に10日から2週間ほど見られます。
- ・クロジ：春も秋もほぼ毎年1～3日ほど見られます。
- ・コマドリ、ノゴマ、エゾムシクイは秋の観察記録はありません。



②北海道より北で繁殖し南の越冬地に移動する途中に寄る「旅鳥」

- ・マミチャジナイ：秋は10月から11月に10日から2週間ほど見られますが、近年は真冬にも見られることもあります。
- ・シロハラ（右写真③）：秋はマミチャジナイ同様ですが、2024-25年の冬は数羽が越冬し4月まで見られていました。
- ・エゾビタキ：9月下旬に数日間見られますが、ここ数年野鳥観察撮影者が増えた影響で、ほぼ毎年観察情報があります。
- ・カシラダカ：9月下旬に見られることがある程度で少ないです。
- ・ミヤマホオジロ：10月以降に数日間見られますが、1月上旬にやって来た年もありました。



③ひと冬に1から数回、春から夏に見られる「冬鳥」

- ・キレンジャク（右写真④）：旭山では、10月から1月まで毎年見られるヒレンジャクの群れに1、2羽混じっている程度で少ないですが、過去に群れで越冬した年も何度かありました。
 - ・イスカ：11～12月に短期間見られ、越冬する年もあります。
 - ・ギンザンマシコ、オオマシコ：見られる年もあります。
 - ・オジロワシ、オオワシ：冬の間時々見られます。オジロワシは道内で繁殖していますが、旭山では現時点では観察情報はないです。
- 秋から冬もいろいろな野鳥との出会いを楽しみたいですね。



レストハウス「ぽるく」営業中！ 10時～17時

旭山記念公園レストハウス「ぽるく」です。

すっかり涼しくなって、日中もワンちゃんの散歩ができるようになりましたね。

9月15日の敬老の日に、レストハウス「ぽるく」スタッフによる「第1回サックス演奏会」が行われ、「昔懐かしあの歌この歌」と題して、昭和のヒット曲を10曲ほど演奏しました。

10月には第2回目を予定しておりますので、お時間が許せば是非お聞きにお越しください。

また、9月26日から、岸部大二さんの生き物の絵画展がレストハウス店内にて行われます。ぜひご覧にお越しください。



旭山野鳥メモ 73 オオハクチョウ

オオハクチョウ Whooper Swan *Cygnus cygnus* 力モ目力モ科

冬鳥だが、北海道では真冬は結氷しない場所に少数残るだけで、ほとんどが本州以南に移動。3月に再び戻ってきて4月中に北に帰る。ケガなどで渡れず残った個体が道内で繁殖した例がある。

旭山では10月に北方から渡りの途中で上空を通過する編隊がほぼ毎年1度は見られる。双眼鏡で嘴が見えるほど低く飛ぶこともある。春の北帰行ではあまり見られないが飛行ルートが違うのか？

越冬地では多数集まって過ごしているが、基本的には家族単位で行動し、餌場に向かう際には数家族一緒に行動することもある。若い個体は全身灰褐色（上写真左幼鳥、右成鳥）。

コハクチョウは嘴の先の黒い部分が付け根までつながっているが、本種のそれは切れていて付け根が黄色い。鳴き声も本種の方が大きい。北海道では本種が、西日本ではコハクチョウが多い。

飛び立つ時は長い助走が必要で、数羽連れ立ってばたばた音を立てながら水面を走る姿はどこかユーモラスかつ圧巻の眺め。着水もまた豪快で、着水直後に水を飲む個体もいる。

飛ぶことができる鳥類では体重が重い部類の1種で、平均10kg、雄で最大15kgの記録もある。

いつも鳴き合っていて楽しい。畠で採餌する姿を見るとほっこりとした気分になる。おおらかな野鳥だ。



2025年10月の野鳥トピックス

- シマエナガ：見られる頻度は若干高くなってきました
- イカル：9月上旬から園内のヌルデの実を食べに来るようになりました。イカルは警戒心が強くあまり低い位置には来ないですが、今年の秋は近くで見られています（右写真）
- シメ：8月下旬からちらほらと見られるようになりました
- メジロ：見る機会は多いです ●ウグイス：ときどき見られます
- アオジ：秋になり園内でしばしば見られるようになりました
- キクイタダキ：園内の針葉樹で観察情報が増えました
- カケス（亜種ミヤマカケス）：園内で飛ぶ姿がよく見られ、観察機会は多いです
- キビタキ、コサメビタキ、オオルリ：南に渡っていなくなった可能性が高いです
- クマゲラ：週に何度か園内で見られています ●ヤマゲラ：園内でときどき見られています



旭山ミニ生き物図鑑2025年10月



毛づくろい中のエゾリス 9/30



ツノアオカムシ今年は多い 7/6



メノコツチハンミョウに注意 9/27



ベニシジミ夏型 9/26



ネバリノギク外来種 9/27



アメリカセンダングサ外来種 9/27



ホオノキ果実（種子） 9/26



ヌルデ果実イカルの食糧 9/28



公式サイト

「アカゲラ通信」 第144号 2025（令和7）年10月4日発行

（公財）札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所

<https://www.sapporo-park.or.jp/asahiyama/> 〒064-0943 北海道札幌市中央区界川4丁目

電話 011-200-0311（金・土・日・祝日 10時～16時）FAX 011-200-0351